

A/R CDM ベースライン・モニタリング方法論ガイドライン日本語仮訳

(社)海外産業植林センター

本文は、CDM 理事会が作成した「PDD・新方法論作成ガイドライン(Clean Development Mechanism Guidelines for Completing the Project Design Document for A/R (CDM-AR-PDD) The Proposed New Methodology for A/R Baseline and Monitoring (CDM-AR-NM) version 04)」のパートIII (CDM-AR-NM のガイドライン)を、A/R CDM ベースライン・モニタリング方法論提案フォーム(CDM-AR-NM version01)に追記する形で掲載し、日本語化した。

文中の表示例:

実線枠内は、CDM-AR-NM フォームの項目である。

EB が作成した PDD・新方法論作成ガイドラインの日本語訳は点線枠内に記入した。

CLEAN DEVELOPMENT MECHANISM
PROPOSED NEW BASELINE AND MONITORING METHODOLOGIES FOR A/R
(CDM-AR-NM) VERSION 01
A/R CDM ベースライン・モニタリング新方法論提案

Section I. Summary and applicability of the baseline and monitoring methodologies ベースライン・モニタリング方法論のサマリーと適用性

1. Methodology title (for baseline and monitoring) 方法論タイトル(ベースライン方法論とモニタリング方法論の)

Methodology title:

>>

曖昧でないタイトルを提案する方法論につける。タイトルはその方法論が適応可能なプロジェクトタイプを反映していなければならない。プロジェクト固有の名称は避ける。次のことを明示する:

- 提案する方法論のタイトル
- 書類のバージョンナンバー
- 書類の日付

If this methodology is a based on a previous submission, please state the previous reference number (ARNMXXXX/ARAMXXXX) here: 以前に提出した方法論に基づいている場合、以前提出した際のリファレンスナンバー(ARNMXXXX/ARAMXXXX)を記述する。

>>

2. Selected baseline approach for A/R CDM project activities A/R プロジェクト活動のベースラインアプローチ選択

Choose One (delete others):

- Existing or historical, as applicable, changes in carbon stocks in the carbon pools within the project boundary;
- Changes in carbon stocks in the carbon pools within the project boundary from a land use that represents an economically attractive course of action, taking into account barriers to investment;
- Changes in carbon stocks in the pools within the project boundary from the most likely land use at the time the project starts.

Explanation/justification of choice:

>>

ベースラインアプローチの選択は、可能であれば、後述のベースライン純吸収量セクションで記述する方法に基づいて行う。

3. Applicability conditions 適用可能条件

Methodology procedure:

>>

プロジェクト活動について記述する。(例: 荒廃地への再植林)

この方法論を適用するために必要な、提案する AR CDM プロジェクト活動が満たさなければならないすべての条件をリストする(例: 適性種、地域の環境、地方、歴史的な土地利用など)。条件は、ベースラインを定義することのようなベースライン方法論の必要なパートであるステップ(段階。ベースライン方法論はステップ・バイ・ステップで段階的、論理的に導かなければならない)の代用ではない。適用条件は提案するプロジェクト活動のタイプと実施する場所がセクターに適していなければならない。これらは推定されるベースラインシナリオの条件ではない(例: 「その土地がプロジェクト活動なしでは同じまま続くこと」は、プロジェクト活動の条件ではないので適用条件として適切ではない。これはベースライン調査の結果である)。

あるケースでは、適用条件への準拠が明白で、容易に検証可能で変化しそうな場合がある(例: 「プロジェクト活動は木材生産またはゴムのような非木材生産を行う」)。しかしながら他のケースでは、適用条件への準拠をクレジット期間中モニタリングする必要があり、その場合、非準拠の結果を方法論に示す必要がある。例えば、「そのプロジェクト活動はプロジェクト前活動の 50% 以上を移動させる結果にはならない」という適用条件がある場合、どのようにすればその適用条件が満たされるのか(例: 活動移動のモニタリングを通じて)、どのように報告されるのかを方法論で説明しなければならない。

Explanation/justification of choice:

>>

適用条件を説明する。同じ適用条件の承認された方法論が存在する場合はそれを示す。

4. Selected carbon pools カーボンプールの選択

Methodology procedure:

>>

現実純吸収量とベースライン吸収量を決定するのに考慮されるカーボンプールを選択し、下の表に示す。現実純吸収量とベースライン吸収量では同じカーボンプールを考慮しなければならない。表には選択についての説明と正当な理由を記す。

Carbon pools	Selected (answer with yes or no)	Justification / Explanation
Above ground		
Below ground		
Dead wood		
Litter		
Soil organic carbon		

Explanation/justification of choice:

>>

その手順の適切性と選択の基礎となる仮説を説明する。

5. Summary description of major baseline and monitoring methodological steps 主なベースラインとモニタリングの方法論的ステップのサマリー

Summary description:

>>

提案する新方法論の主要な要素を下記のセクションごとに要約する。ベースラインとモニタリングが下記の点をどのように扱っているか、簡潔にしめす。

ベースライン方法論:

- i. プロジェクトバウンダリーの定義
- ii. 階層化
- iii. ベースラインシナリオの選択
- iv. 事前(プロジェクト前)ベースライン吸収量の計算
- vi. 追加性の証明
- vii. 事前現実純吸収量の計算
- viii. リークエッジ排出量

モニタリング方法論:

- i. プロジェクト活動実施のモニタリング
- ii. 階層化
- iii. 事後(プロジェクト実施後)ベースライン吸収量の計算(必要な場合)
- iv. 事後現実純吸収量の計算

関連があれば、どのようにこの方法論がどのように承認済み方法論に基づいているのか、どのようにそれを補完するのか、代案を提供するのかを示す。

1ページを超えてはならない。方法論の詳細な説明は下記のセクションで行う。

a. Baseline methodology steps:

>>

b. Monitoring methodology steps:

>>

Section II. Baseline methodology description ベースライン方法論の記述

>>

1. Project boundary プロジェクトバウンダリー

Methodology procedure:

>>

定義:プロジェクトバウンダリーは地理的な輪郭を示すものであり、プロジェクト参加者のコントロール下にあるすべての人為的排出、吸収(重大で論理的に A/R CDM プロジェクト活動に帰するもの)を包囲していなければならない。

- a. プロジェクトバウンダリーの地理的な輪郭を記述する(プロジェクトバウンダリーは A/R CDM プロジェクト活動に計画されているエリアを含まなければならない)。
- b. プロジェクトバウンダリー内のすべての GHG 排出源を下記の表に特定する。カーボンストック変化による CO₂ 排出・吸収はこの表に含めない(セクション I.3 に記述されている通り)。すべての排出源が現実純吸収量の計算に含まれるのか除外されるか説明し、除外する場合はそれが正当であることを説明する。可能であれば表を使って説明する。

Sources	Gas	Included/ excluded	Justification / Explanation
E.g. use of fertilizers...	CO ₂		
	CH ₄		
	N ₂ O		
E.g. combustion of fossil fuels used in	CO ₂		
	CH ₄		

on-site vehicles	N ₂ O		
------------------	------------------	--	--

Explanation/justification of choice:

>>

重大で論理的にプロジェクト活動に起因し、プロジェクト参加者のコントロール下にあるすべての人為的 GHG 排出を包囲していることを考慮に入れ、プロジェクトバウンダリーを正当化する。

2. Stratification 階層化

Methodology procedure:

>>

純人為的吸収量の事前推定で、土地の階層化がどのように行われたのかを記述する。リモートセンシングデータ(航空写真、衛星画像など)の使用が推奨される。

Explanation/justification of choice:

>>

その手順の適切性と基づいている仮説を説明する。

3. Procedure for selection of most plausible baseline scenario もっともらしいベースラインシナリオの選択手順

Methodology procedure:

>>

システマティックにステップ・バイ・ステップでもっともらしいベースラインシナリオの決定の手順を説明する。この手順では、ベースラインシナリオのもっともらしい候補となる選択肢を同定する過程を記述する。最も考えられるベースラインシナリオを確認するために行わなければならない論理的で分析的なステップを明確に説明しなければならない。方法論使用者が、ベースラインシナリオの論理的で具体的なケースを作るためにしなければならないことや、どのような情報を CDM-AR-PDD で提示しなければならないかを明確に示す。明確で完全に作成すれば、その手順は明確な方法で実行でき、繰り返し使用でき、有効化審査に従うことができる。

この方法論から導かれたベースラインシナリオとベースライン純吸収量計算に使用された手順や数式(下記に記載)との一貫性を確実にする。ベースラインシナリオの定義手順では、この方法論全体が適用可能なベースラインシナリオがどれか示さなければならない。この状況はベースライン純吸収量セグメントにこのシナリオに関するアルゴリズムやパラメータが含まれていない場合に起こりえる。

Explanation/justification of choice:

>>

ベースラインシナリオ定義のための提案する手順が、なぜこのプロジェクトタイプと適用条件に適切なのか説明する。

最ももらしいベースラインシナリオと考えられる選択肢の範囲が理解できるということを正当化する。考えられる選択肢には、異なるベースラインシナリオの定義に帰着するかもしれないシナリオを除外してはならない。

ベースラインシナリオ定義の手順に使われる、主な論理的な過程と定量的な係数を強調する。どの過程と係数が重大な不確実性を孕んでいるか、その不確実性はどのように記述すべきか明確に示す。

この方法論ではどのような国や地域の政策や状況が考慮されているのか、関係があれば説明する。

4. Estimation of baseline net GHG removals by sinks ベースライン純吸収量の推定

Methodology procedure:

>>

ベースライン純吸収量は、A/R CDM プロジェクト活動がなかった場合のプロジェクトバウンダリー内のカーボンプールのカーボンストックの変化の総量として定義される。

その方法論がベースライン純吸収量を事前に推定する方法を提示しモニタリング方法論にベースライン純吸収量のモニタリングを提示しているか、または、その方法論は事前にベースライン純吸収量を推定するだけなのかを説明する。

ベースラインシナリオからベースライン純吸収量の推定、測定、計算に使用したすべてのアルゴリズムと公式をすべて記述する。明確で完全に作成すれば、その手順は明確な方法で実行でき、繰り返し使用でき、有効化審査や検証で従うことができる。

－矛盾のない変数、数式、記号を使う

－数式に番号をふる

－すべての変数、パラメータを定義し、単位を明記する

－アルゴリズム・手順がひかえめ (conservative) であることを正当化する。可能であれば、主なパラメータの不確実性を定量的に考慮する方法も含むこと。

ベースライン純吸収量の計算で使われるパラメータ、係数、変数などは:

a) 変数が方法論で使用される場合

－その値のリファレンスを明確に示す (例: 公式統計、IPCC ガイドライン、商業的・科学的文献)

－使用する値がひかえめであることを示す

b) プロジェクト参加者から値が提供された場合、どのようにその値が選択され妥当とされたか明示する。例えば、

－データの年代は適切か

－データの空間解像度はどのレベルが適切か

－値がひかえめであることはどのように保証されるのか

モニタリングによって得られるすべてのパラメータ、係数、変数などはその旨記述する。プロジェクト参加者はベースライン方法論とモニタリング方法論に矛盾がないことを保証しなければならない。

Explanation/justification of choice:

>>

5. Additionality 追加性

Methodology procedure:

>>

プロジェクト活動またはその一部がベースラインシナリオではないことを決定するためのシステムティックなステップ・バイ・ステップの手順を提示する。つまり、プロジェクト活動が追加的であることを定義する。方法論には、方法論使用者が何をしなければならないか、プロジェクトの追加性を論理的で具体的なケースにするためにどのような情報を CDM-AR-PDD で提示しなければならないかを明確に示す。

この方法論のベースラインシナリオと追加性の証明の手順や公式が矛盾しないようにする。多くの方法論ではベースラインのセクションと追加性のセクションには強い関わりがあると考えられる。それぞれのステップにおいて、手順を出来るだけ詳細に記述する (ただし不要な繰り返しはさける) こと。

Explanation/justification of choice:

>>

提案された手順が、プロジェクトの追加性を確立するのになぜ適切であるのかを明示する。

プロジェクトが追加的であることを証明する手順で使用される主な論理的な過程と定量的なファクターを強調する。どの過程やファクターが重大な不確実性を孕むのか、どのように不確実性に配慮するのか明確に示す。

どのように国や地域の政策、状況が方法論に考慮されているのか、関係がある場合は、説明する。

6. Ex ante actual net GHG removals by sinks 事前(に推定した)現実純吸収量

Methodology procedure:

>>

現実純吸収量の事前推定について、矛盾のない、ステップ・バイ・ステップの手順を示す。すべてのアルゴリズムや公式を示す。その際、

- －矛盾のない変数、数式、記号を使用する
- －すべての数式に番号をふる
- －デフォルト値を方法論で使用する場合、その値のリファレンスを明確に示す(例:公式統計、IPCC ガイドライン、商業的・科学的文献)
- －プロジェクト参加者から値が提供された場合、どのようにその値が妥当とされたか明示する

その際、ソースからの GHG 排出とシンクによる吸収量を区別する:

- a. カーボンプールのカーボン蓄積の実証可能な変化
- b. ソースからの GHG 排出。これは、A/R CDM プロジェクト活動の実施の結果起こったプロジェクトバウンダリー内のソースからの GHG 排出量の増加を含む。例えば:
 - i) 化石燃料燃焼からの GHG 排出計算
 - ii) バイオマス燃焼からの排出計算
 - iii) 窒素肥料使用による一酸化二窒素排出計算(プロジェクト活動によるソースからの GHG 排出を特定するには、プロジェクト参加者は、プロジェクト前排出に関する理事会のガイダンス EB 21 Annex 15 を参照すること)
- c. 現実純吸収量はカーボンプールの炭素貯留量の実証可能な変化量から、ソースからの排出増加量をマイナスしたものである。

Explanation/justification of choice:

>>

すべてのアルゴリズムや公式が勝手に決めたものではないことを説明する。その手順が、A/R 活動のスタンダードな手順と矛盾しないことを述べる。必要であればリファレンスをつける

7. Leakage リークエッジ

Methodology procedure:

>>

リークエッジは A/R CDM プロジェクト活動のバウンダリー外で起こるソースからの GHG 排出増加量と定義され、A/R CDM プロジェクト活動に起因し、測定すべきものである。

EB は、プロジェクトバウンダリー外のカーボンプールの減少の計算はリークエッジとして考慮に入れなければならないことを明確にした。特に、

- (a) プロジェクトバウンダリー外の開墾などによる森林減少(活動の移動によって影響をうけるすべてのカーボンプールについて考慮する。)
- (b) プロジェクトバウンダリー外での薪炭材採取などは、顕著な森林の劣化がなければ、採取された材積のうち再生不能であるもののみ、ソースからの排出として考慮する。IPCC GPG (2003)に示されている薪炭材収集についての数式(Eq.3.2.8)を家計調査(household survey)や参加型農村調査法

(PRA)と組み合わせることで適用することが出来る。森林が顕著に減少した場合、計算ルール1を適用する。「顕著に減少しない」とは、持ち出された材積が純人為的吸収量の2%から5%の間の排出を生じることを意味する。持ち出された材積が純人為的吸収量の2%以下の場合、このタイプのリーケッジは無視できる。

リーケッジの同定には、プロジェクト参加者はEB21Anx15のプロジェクト前排出に関するEBのガイダンスを参考にすること。

可能性のある重要なリーケッジのソースを同定する。どのリーケッジソースが無視できるのかリストする。リーケッジの推定・測定・計算に使用したアルゴリズムと公式をすべて記述する。明確で完全に作成すれば、その手順は明確な方法で実行でき、繰り返し使用でき、有効化審査や検証に従うことができる。

－矛盾のない変数、数式、記号を使う

－数式に番号をふる

－すべての変数、パラメータを定義し、単位を明記する

－アルゴリズム・手順がひかえめ (conservative) であることを正当化する。可能であれば、主なパラメータの不確実性を定量的に考慮する方法も含むこと。

リーケッジの計算で使われるパラメータ、係数、変数などは:

a) 変数が方法論で使用される場合

－その値のリファレンスを明確に示す (例: 公式統計、IPCC ガイドライン、商業的・科学的文献)

－使用する値がひかえめであることを示す

b) プロジェクト参加者から値が提供された場合、どのようにその値が選択され妥当とされたか明示する。例えば、

－データの年代は適当か

－データの空間解像度はどのレベルが適切か

－値がひかえめであることはどのように保証されるのか

モニタリングによって得られるすべてのパラメータ、係数、変数などはその旨記述する。プロジェクト参加者はベースライン方法論とモニタリング方法論に矛盾がないことを保証しなければならない。

リーケッジの計算が事後に実施される場合でも、この手順は事前推定の計算に含めなければならない。

Explanation/justification of choice:

>>

すべてのアルゴリズムや公式が勝手に決めたものではないことを説明する。その手順が、その分野のスタンダードな手順と矛盾しないことを述べる。必要であればリファレンスをつける。

無視するリーケッジソースの選択を正当化すること。

どの仮定と手順がそれにかかわる重要な不確実性を含んでいるのか、どのようにそのような不確実性を記述すべきなのか明確にする。

8. Ex ante net anthropogenic GHG removal by sinks 事前(に推定した)純人為的吸収量

Methodology procedure:

>>

純人為的吸収量は現実純吸収量マイナスベースライン純吸収量マイナスリーケッジと定義される。tCERとICERを使用する場合両方のプロジェクト活動の純人為的吸収量の計算式を提示すること。これらの計算式についてはEBの最新のガイダンスを参照すること。

Explanation/justification of choice:

>>

9. Uncertainties and conservative approach 不確実性と控えめなアプローチ**Methodology procedure:**

>>

Explanation/justification of choice:

>>

この方法論が、純人為的吸収量が控えめな方法で推定していることをどのように保証するのかを、方法論の不確実性を考慮しながら説明する。その際、ベースライン方法論の不確実性について、下記について調べ、記述する:

- a. ベースラインシナリオ決定の根拠
- b. アルゴリズムと公式
- c. 重要な仮定
- d. データ

10. Data needed for ex ante estimations 事前推定に必要なデータ**Methodology procedure:**

Data / parameter	Description	Vintage	Data sources and geographical scale

>>

事前計算を行うために必要な、下表のそれぞれのデータ、パラメータの情報を提供する。例を2つ挙げる:

データ/パラメータ	説明	年代	データソースと地理的スケール
歴史的土地利用/土地被覆データ	プロジェクトバウンダリーの土地利用/被覆タイプを明確に記述した地図と表	1990年とプロジェクト実施前の最新データ	航空写真、衛星画像、フィールドでのチェック
RSR	関連するすべて樹種の根と幹の比(Root Shoot Ratio)	可能な限り最新のデータ	科学的文献、IPCC LULUCF GPG

Explanation/justification of choice:

>>

11. Other information その他情報**Explanation/justification of choice:**

>>

このベースライン方法論がどのようにして透明性の高い方法でベースラインを開発することを可能にしたのか記述する。

この新方法論提案の利点と欠点は何か？

その他の情報はここに記述する。

Section III: Monitoring methodology description モニタリング方法論の記述

>>

1. Monitoring project implementation プロジェクト実施のモニタリング

Methodology procedure:

>>

プロジェクトバウンダリー内の土地でプロジェクトの実施することを明確に同定するための手順を記述する。

- プロジェクト活動の一部として成林した植林地の地理的位置とサイズ
- それぞれの林分の面積の変化
- その植林地がすでに作成された管理プランに従って管理されているかどうか。
- 関係がある場合: 適用条件はそのプロジェクト活動に適用できるかどうか。

Explanation/justification of choice:

>>

それぞれの方法の適切性と潜在する仮定について説明する

2. Sampling design and stratification サンプリングデザインと階層化

Methodology procedure:

>>

現実純吸収量とベースライン純吸収量(ベースラインのモニタリングを行う場合)の事後計算で、サンプリングデザインをどのように行わなければならないか記述する。サンプリングデザインは、特に、階層化、プロット数の決定、プロットの分布などを含める。

Explanation/justification of choice:

>>

それぞれの方法の適切性と潜在する仮定について説明する

3. Calculation of ex post baseline net GHG removals by sinks, if required ベースライン純吸収量の事後計算(必要な場合のみ)

Methodology procedure:

>>

方法でベースラインのモニタリングが必要な場合、ベースライン純吸収量の事後推定の矛盾のないステップ・バイ・ステップの手順を提供する。すべての必要なアルゴリズムや公式を記述する。その際:

- 矛盾のない変数、数式、記号を使う
- 数式に番号をふる
- すべての変数、パラメータを定義し、単位を明記する

リーケッジの計算で使われるパラメータ、係数、変数などは:

- 変数が方法論で使用される場合

- その値のリファレンスを明確に示す(例:公式統計、IPCC ガイドライン、商業的・科学的文献)
 - 使用する値がひかえめであることを示す
 - b) プロジェクト参加者から値が提供された場合、どのようにその値が選択され妥当とされたか明示する。例えば、
 - データの年代は適切か
 - データの空間解像度はどのレベルが適切か
 - 値がひかえめであることはどのように保証されるのか
- 適切であれば品質保証・品質管理手順を記述し、必要であれば許容できる偏差を明記する。

Explanation/justification of choice:

>>

アルゴリズムや公式のすべての部分について、それが自明の理でないことを説明する。その手順が A/R プロジェクト活動の標準的な手順と矛盾しないことを証明する。必要であればリファレンスを提示する。

4. Data to be collected and archived for the estimation of baseline net GHG removals by sinks
 ベースライン純吸収量の推定のために収集・保存するデータ

Methodology procedure:

>>

その方法論でベースラインのモニタリングが必要な場合、ベースライン純吸収量の推定のために収集し保存するすべてのデータを下記の表にリストする。
 モニターしたデータはクレジット期間終了後2年間保存する。必要であれば表の行を追加する。

ID number	Data Variable	Source of data	Data Unit	Measured (m) calculated (c) estimated (e)	Recording frequency	Pro-portion of data monitored	How will data be archived? (electronic/paper)	Comment

5. Calculation of ex post actual net GHG removal by sinks 現実純吸収量の事後計算

Methodology procedure:

>>

- プロジェクト活動からの排出量の推定・測定・計算に使用されるすべてのアルゴリズムと公式について記述する。明確で完全に作成すれば、その手順は明確な方法で実行でき、繰り返し使用でき、有効化審査や検証に従うことができる。
- 矛盾のない変数、数式、記号を使う
 - 数式に番号をふる
 - すべての変数、パラメータを定義し、単位を明記する
 - アルゴリズム・手順がひかえめ (conservative) であることを正当化する。可能であれば、主なパラメータの不確実性を定量的に考慮する方法も含むこと。
- ベースライン純吸収量の計算で使われるパラメータ、係数、変数などは:
- a) 変数が方法論で使用される場合
 - その値のリファレンスを明確に示す(例:公式統計、IPCC ガイドライン、商業的・科学的文献)
 - 使用する値がひかえめであることを示す
 - b) プロジェクト参加者から値が提供された場合、どのようにその値が選択され妥当とされたか明示する。例えば、

- どのようなタイプのソースが適切か
- データの年代は適切か
- データの空間解像度はどのレベルが適切か
- 値がひかえめであることはどのように保証されるのか

ベースライン方法論とモニタリング方法論に矛盾がないことを保証すること。

以下のソースからの GHG 排出とシンクによる吸収の区別する:

- a. カーボンプールの炭素蓄積量の実証可能な変化
- b. ソースからの GHG 排出量。これにはプロジェクト実施の結果として生じたプロジェクトバウンダリー内のソースからの GHG 排出増加量が含まれる。例えば:
 - i) 化石燃料消費による GHG 排出量の計算
 - ii) バイオマス燃焼による GHG 排出量の計算
 - iii) 窒素肥料実施一酸化二窒素排出量の計算
- c. 「現実純吸収量」は、「実証可能なカーボンプールの炭素蓄積量の変化」マイナス「ソースからの排出増加量」である。

適切であれば品質保証・品質管理手順を記述し、必要であれば許容できる偏差を明記する。

6. Data to be collected and archived for actual net GHG removals by sinks 現実純吸収量のために収集・保存するデータ

Methodology procedure:

>>

現実純吸収量の推定のために収集し保存するすべてのデータを下記の表にリストする。モニターしたデータはクレジット期間終了後2年間保存する。必要であれば表の行を追加する。「6.1 カーボンプールの定量化のために収集・保存するデータ」、「6.2 GHG 排出ソースの定量化のために収集・保存するデータ」としてそれぞれしたの表を作成する。

ID number	Data Variable	Source of data	Data unit	Measured (m) calculated (c) estimated (e)	Recording frequency	Proportion of data monitored	How will data be archived? (electronic/paper)	Comment

7. Leakage リークエッジ

Methodology procedure:

>>

セクション II.7 を参照。

Explanation/justification of choice:

>>

セクション II.7 を参照。

リークエッジも、現実吸収量の GHG 排出と同様、モニタリングし記録したデータを使用して計算を行う。

8. Data to be collected and archived for leakage リークエッジのために収集・保存するデータ

Methodology procedure:

>>

リーケッジ排出量の推定のために収集し保存するすべてのデータを下記の表にリストする。
モニターしたデータはクレジット期間終了後2年間保存する。必要であれば表の行を追加する。

ID number	Data Variable	Source of data	Data unit	Measured (m) Calculated (c) estimated (e)	Recording frequency	Pro-portion of data monitored	How will data be archived? (electronic/ paper)	Comment

9. Ex post net anthropogenic GHG removal by sinks 純人為的吸収量の事後計算

Methodology procedure:

>>

「純人為的吸収量」は「現実純吸収量」マイナス「ベースライン純吸収量」マイナス「リーケッジ」と定義される。

tCERを使用するプロジェクト活動とICERを使用するプロジェクト活動それぞれの場合の、純人為的吸収量の計算するための公式を示す。

公式については最新のEBのガイダンスを参照すること。

10. Uncertainties and conservative approach 不確実性と控えめなアプローチ

Explanation/justification of choice:

>>

純人為的吸収量が控えめな方法で推定されたことをどのようにその方法論が保証するのか、その方法論の不確実性を考慮に入れて説明する。その際、ベースライン方法論の不確実性を、特に、次のことについて調べて記述してもよい。

- a. ベースライン決定の根拠
- b. アルゴリズムと公式
- c. 主な仮定
- d. データ

11. Other information その他情報

Explanation/justification of choice:

>>

そのベースライン方法論がベースラインの開発をどのように透明性のある方法で行っているか解説する。

この提案される新方法論の潜在的な長所と短所は何か？

その他の情報はここに記述する。

Section IV: Lists of variables, acronyms and references 変数、頭字語、リファレンス

1. List of variables used in equations: 数式に使用された変数のリスト

Variable	SI Unit	Description

2. List of acronyms used in the methodologies: 方法論で使用された頭字語のリスト

Acronym	Description

3. References: リファレンス

>>
